



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

今冬の気象予報

暖冬を促すエルニーニョ現象がつかつてないほどの勢いとなつていくとの観測結果が報道されています。現に12月の気象はとも冬の気候とは思えない経過をたどっています。こうした気象の変化は農

業において、野菜の作型が変わつてきたり病害虫の発生経過や種類が変わつてきたりしてきます。今後はますます野菜の生育状況の観察と適切な管理が求められてきます。



大門 優  
園芸アドバイザー  
お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ  
http://ja.tannan.com/営農手帳をご覧ください。

◎圃場の管理

気温が高めに推移している中で土壌水分が高いと、根の傷みはさらに進みます。幸い積雪はあまりない状況ですので、降雨直後に圃場を見回り圃場の排水状況を確認して排水対策を講じましょう。圃場の状況は必ず降雨中か降雨直後に確認してください。

◎新年度に向けての病害虫対策

近年の暖冬傾向の中で、病害虫の発生様相が変わつてきています。害虫ではネギやウリ類につくアザミウマ類の増加、ナス、トマトなどのタニ類、キュウリや豆類のアブラムシ類、アブラナ科野菜につくキスジノミハムシなどの微小害虫の増加が目立ってきています。またネギリムシなどの土壌害虫も発生が多くなっています。庭木や果樹などのコナジラミやカイガラムシによるすす病も相談が多くなっています。病害では灰色カビ病、疫病、べと病、ウドンコ病などカビ菌による発生が多くなっています。またアブラナ科野菜の根コブ病が増え続けていますし、タマネギなど収穫後の乾燥中に黒カビ病にやられる事例が多くなっています。

今年発生した病気は今後増加し続けますので、初期防除が重要になってきます。土壌病害虫対策としては、野菜の植え付け前の土壌処

理剤の施用は欠かせなくなつてきています。

◎野菜の保管

今年秋の気温が高く、野菜の生育が進んでしまったためどのように保存するかの問い合わせが多くなっています。少量の野菜を短期間の保存なら、洗ってポリ袋に入れ冷蔵庫に保管します。それより長期の保存となれば、その野菜の生育をそのままストップさせる処置が基本となります。従つて余分な葉はカットし、土付きのまま凍結の恐れのない範囲でできるだけ温度の低いところに置いておきます。日当たりのよくない圃場に仮植しておくことも一つの方法です。特にダイコンなど根菜類は葉が多いと根元に萎びがきて品質を落とすので葉はほとんど切り落としてしまします。

よく収穫した野菜を肥料袋に入れてある状況を見受けませんが、通気性の無い容器や袋を利用することはお勧めできません。

野菜の中でもイモ類は一般的に低温に弱いので保存には工夫がいります。乾かしてから低温に置かないところに保管しますが、小割したサトイモや自然薯などヤマノイモ系のイモ類は乾かし過ぎると萎びてきて商品価値を落としてしまいます。最近はやりのシヨウガは一定の温度と高い湿度を維持しなければならず最も保存が難しい野菜です。

◎圃場排水対策などのポイント



トマトのネコブセンチュウ被害。収穫の終わった野菜の始末時には、根部の状態を観察しましょう。



圃場を耕起した後を観察し、圃場のどの部分が排水が良くないか覚えておき、作付けする野菜の工夫や畝作りの対策を考えましょう。



水路との落差があっても、水の落とし場所がないため滞水を引き起こしている。



圃場周囲にブロックを埋めたことで、排水が阻害されている。

◎イモ類などの保管まとめ

一般注意事項	芋は湿気のないように乾燥させておく。洗ってしまった芋は萎びやすく保存期間も短くなります。発砲スチロール箱やビニール袋など通気性の無い容器は使用しない。段ボール箱が適当です。障害の起きない温度の維持は必要ですが、温度の変化もできるだけ少なくする。保存途中で腐りの有無を点検し、腐った芋は適宜処分しておく。	
品目	保存温度	保存のポイント
サトイモ	8~12℃程度	小割するほど傷口が多くなり保存性は低下する。乾かし過ぎると萎びが来て品質が低下する。ハツ頭は12~15℃程度とする。
サツマイモ	10~12℃程度	品種による差がある。紅アズマは腐りやすく、金時系は貯蔵しやすい。
ゴボウ	0~5℃程度	乾燥すると固くなってしまいます。泥つきの場合は、そのまま湿らせた紙に包んで風通しのよい涼しいところで保存しましょう。
ジャガイモ	3~5℃程度	空気が淀まず、光の当たらない場所に置く。温度が高いと萌芽してくる。芋とリンゴと一緒に紙袋に入れて保管すると萌芽しにくくなると言われています。
ヤマノイモ	0~3℃程度	乾燥が進まないよう有穴ポリ袋を使用します。
シヨウガ	13~15℃	湿度を高く保つためポリ袋などに入れて、冷暗所に置きます。



野菜畑は若干傾斜があることが普通です。丹南では水田跡の転作畑が主流のため、勾配が無いので、特に排水対策は重要です。



12月の大雨で水没した圃場①。せつかくのタマネギも今後の生育が懸念されます。



圃場滞水状況を踏まえて畝を上げてある。



12月の大雨で水没した圃場②。こうした恐れのある圃場はかなり高い畝を立てなければなりません。